

日本民家園だより

特集 建築とことわざ

vol.94

しきい
敷居を踏んではいけない

敷居を踏むのは
親の頭を踏むのと同じ

敷居の上にやかん
薬缶を置くと
親の頭がは
禿げる

敷居をたた
叩くのは
親の頭を叩くのと
同じ

敷居に乗ることは
親の頭に乗ることと同じ

敷居にくぎ
釘を打つはおやふこう
親不孝

企画展 「二足のわらじはなぜわらじ？
— ことわざになった道具考 —」

2021年7月1日(木)～11月30日(火)

建築とことわざ

ことわざは人々の生活の中から生まれました。その題材は、食べ物や動植物、道具や素材、天候などといった生活に身近なもので、建物に関する言葉も多く登場します。ここでは、建物や建物を作る道具などが元になっていることわざや俗信を紹介します。



いえ 家



自分の家を構えることを「**家を持つ**」といいます。昔は、家には主婦が必要だと考えられていたため「**家に女房なきは火のなき炉の如し**」「**家に女房の無きは梁の無きと同じ**」などといわれました。暮らし向きは「**家は狭かれ心は広かれ**」といって質素をよしとし、家に似合わぬ贅沢なものを持つようになると「**家より釜高し**」といわれます。そのような贅沢なものは、持て余すようになると「**家に勝った太鼓**」といわれ、最後は「**家を傾ける**」といい、家を破産させます。仕舞いには、大金をかけた家でも売りに出すと安値になってしまうことから「**家売れば釘の価**」といわれました。

くら 倉



倉は誰もが建てられる建物ではありません。「**倉が建つ**」といえば、非常にお金持ちになることのたとえで、「**倉は長者の花**」というほど、倉は富の象徴でした。倉に蛇が住み着くことは、縁起が良いと信じられ、「**倉の蛇を殺すと貧乏になる**」と戒めました。

やね 屋根



屋根は度々補修が必要です。葺き替えると雨漏りの心配がなく気が楽になるため「**屋根替えすれば肥ゆる 葺替えすれば痩せる**」といいました。茅より丈夫な瓦でも「**瓦千年手入れ万年**」といい、長持ちさせるためには手入れが大切でした。屋根替えはとかくお金がかかります。そのため「**屋根葺ける**」というと、行商人がその日の利益を手にすることや採算がとれることを意味しました。屋根を葺く職人にも「**紺屋の白袴**」と同様のことわざがあり、雨漏りする自分の家の屋根を放っておくことから「**屋根葺き屋根を葺かず**」といいました。

ざしき 座敷



一般的に座敷は、格の高い家しか設えることができないもので、来客や冠婚葬祭用の部屋でした。そこで、表向きのことを内々に済ますことを「**座敷の塵取りで団扇で済ます**」といいました。葬儀の際、座敷の縁側から出棺する風習は各地にみられます。そのため、それ以外の時に座敷から出ることを「**座敷から履き物をはいておるとよくない**」と戒めました。

敷居



敷居には、物理的な境と心理的な境の意味合いがあります。物理的な境では、家に入ることを「敷居をまたぐ」といいます。また、敷居に土砂や異物がはさまるのを避けるため、「敷居に乗ることは親の頭に乗ることと同じ」と戒めました。一方、心理的な境では、その家に行きにくい状況を「敷居が高い」「敷居が鴨居」などといいました。

畳



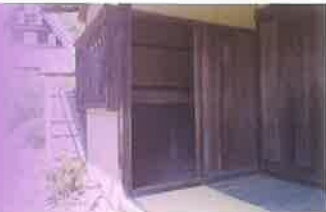
人間一人が占める広さを「起きて半畳寝て一畳」といいます。畳は、一般庶民にとって高価なものであったので、全く働かなくても生計が成り立つことを「畳の上に寝ていて食う」といいました。畳は板の間よりやわらかいので、思いがけない怪我などをすると「畳の上の怪我」といわれます。

便所



便所にまつわる俗信には、「便所で歌を歌うと声が悪くなる」(神奈川県)「便所の側に南天を植えると中風にならない」(山梨県)「便所の途中で倒れると長病をする」(福島県)などがあります。また、便所を清潔にするための教えとして、「便所の掃除を綺麗にすると美しい子が生まれる」「便所をよく掃除すれば器量がよくなる」などという俗信が各地にみられます。

風呂



風呂を沸かすことを「風呂を立てる」といいます。客が長居せずに立って帰ることを風呂が沸く意味の「立つ」にかけて「風呂と客とは立ったがよい」といいました。薪で焚く風呂は、入浴を遠慮し合って時間が経つと湯が冷めてしまうので、「風呂の容赦は水になる」といって、遠慮も時には度を越してはならないと教えました。

囲炉裏



囲炉裏にまつわる俗信はたくさんあります。例えば、「囲炉裏に柿をくべると子供が火傷をする」(山形県)「囲炉裏に爪を捨てると爪の形が悪くなる」(富山県)「囲炉裏に湯水を捨てると病人が絶えない」(秋田県)「囲炉裏を跨ぐと罰が当たる」(神奈川県)などといわれ、暮らしに不可欠な囲炉裏を粗末にしないように気を付けていました。

井戸



井戸は底が深く、地上と隔たりがあるため、見識の狭いことを「井の中の蛙」「井戸の鮒」などといいます。深い井戸に落ちそうな危険な様子は、「井戸端の茶碗」「井戸の端の童」と例えました。「井の底の瓶」というと、井戸の釣瓶の縄が切れて瓶と離れ離れになることから、男女の離別を指しました。

かねじゃく 曲尺



曲尺は、直角に曲がった金属製の物差しで、^{かね}矩ともいいます。決まった形状であることから「**矩にする**」
といえ、決まりに当てはめて物事を正すことを意味
します。しかし、世の中には決まりにとらわれると
対処できない物事もあるため、それぞれにふさわしい
対処の仕方があるということを「**曲がった木に曲がっ
た矩**」といたしました。

のみ 鑿



鑿は、木材の接合部^{せつごうぶ}の加工に用います。^{たた}叩き鑿に
は槌が必要のため、鑿を渡すよう指示した親方に、
弟子が槌も併せて用意する「**鑿と言わば槌**」は、万事
にすべて気がきくことをいいます。鑿は用途に応じ
て種類が豊富で、他の道具では代用が利きません。
そこで、どんなに優れた道具でも、本来の用途以外
には役に立たないことを「**鑿に鉋^{かな}の働きはなし**」と
いたしました。

のこぎり 鋸



鋸で材を切るには、押す引く両方の動作が必要です。
その様子を商売に見立て、売りに行った先で商品を
仕入れ、他の所で売るなど、抜け目ない商いをする
ことを「**鋸商い**」といたしました。材を切った後に出る
^{おがくず}大鋸屑は無用のものですが、「**大鋸屑も取り柄**」「**大鋸
屑も結べば結ばる**」といい、世の中に全然役に立た
ないものはなく、不可能に思えることでもできる
可能性があることを大鋸屑で例えました。

つち 槌



見込みや目当てのことを「**当ての槌**」とといいます。
細い釘^{くぎ}と違い、外れることのない「**大地に槌**」は、
絶対に失敗しないことの例えです。金槌で釘を打ち
込む様子も、ことわざになっています。「**金槌気根^{かなづちきこん}**」は、
根気よく物事を続けて成し遂げることをいい、「**金槌
論**」は釘を打ち込むように自分の意見を積みかけて、
無理を通そうとすることをいいます。

(関悦子)

参考文献：尚学図書編『故事・俗信 ことわざ大辞典』小学館、1982年

日本民家園だより vol.94

発行：令和3（2021）年7月1日

川崎市立日本民家園 URL <https://www.nihonminkaen.jp/>

〒214-0032 川崎市多摩区柞形7-1-1 TEL 044 (922) 2181 FAX 044 (934) 8652

交通 小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車南口より徒歩13分

開園時間 [3～10月] 9時30分～17時 [11～2月] 9時30分～16時30分 (入園は閉園30分前まで)

休園日 毎週月曜日(祝日の場合は開園)、祝日の翌日(土日・祝日の場合は開園)、12月29日～1月3日 ※臨時休園あり

入園料 一般500円、高校・大学生300円(要証明書)、65歳以上300円(川崎市在住の方無料、要証明書)、中学生以下無料

